

# 令和4年度県北オープン

## 国語

### 受験上の注意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 検査時間は、50 分間です。
- 3 大きな問題は全部で5問で、表紙を除いて19 ページです。  
また、別に解答用紙が1枚あります。監督者の指示に従い、解答用紙のきめられた欄に氏名、フリガナ、中学校名、受験番号を書き、受験番号の下のマーク欄にマークしなさい。
- 4 監督者の「始め」の合図があったら、試験を始めなさい。
- 5 答えはすべて、最も適当なものを一つ選んで、解答用紙のきめられた解答欄にマークしなさい。  
例えば、大問 $\boxed{1}$ の1の(1)の問いに対してアと解答する場合は、次の(例)のように、 $\boxed{1}$ の1の(1)の解答欄のアを塗ってマークする。

(例)

$\boxed{1}$	解答欄
1 (1)	<input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>

- 6 監督者の「やめ」の合図があったら、すぐやめて、筆記用具をおきなさい。



4 次の文のうち、慣用句の使い方が適切なものはどれか。

- ア なかなか打開策が思い浮かばず、思わずあごをなでる。
- イ こんな所で油をしぼっていいいで早く帰りなさい。
- ウ 会って話したほうがよいのか迷って勇み足を踏む。
- エ 社長の鶴の一声で、今週の目標が決まった。

5 次の文の——線の部分を単語に分けたとき、品詞名が正しい順に並んでいるのはどれか。

あの大きな喜びを忘れることはないだろう。

- ア 連体詞→連体詞→名詞
- イ 名詞→形容詞→動詞
- ウ 連体詞→形容詞→名詞
- エ 名詞→連体詞→動詞

6 次の□に入る最も適切な四字熟語はどれか。

□の末に、彼は前例のないすばらしい業績を残した。

- ア 行雲流水こううんりゅうすい
- イ 朝三暮四ちようさんぼし
- ウ 玉石混交いせきこんかう
- エ 臥薪嘗胆がしんじやうたん

7 次の漢字のうち、異なる部首をもつ漢字はどれか。

- ア 聞
- イ 閑
- ウ 間
- エ 関

8 次の藤原好風が詠んだ和歌の情景や心情を説明したものとして適切なものはどれか。

春宮の帯刀の陣にて、桜の花の散るをよめる  
藤原好風

春風は花のあたりをよきて吹け心づからやうつろふと見む

- ア 春風も、悲しいことや忘れたいことがあってあのように桜の花を吹き散らそうとしているのだからかといぶかる思い。
- イ 何となくゆううつな自分の心も、春風が満開の桜の花といっしょに吹き飛ばしてほしいものだという思い。
- ウ 春風に散らされるのではなく、自ら散っていくのなら仕方ないと言いながら、桜が散りゆくのを惜しむ思い。
- エ まるで桜の満開の時期を予想して春風が吹いてくるように感じ、季節は留まることなく移り変わってしまうという思い。

2 次の文章を読んで、1から8までの問いに答えなさい。

今はむかし、物ごと自慢(1)くさきは未練(注1)のゆへなり。物の上手の上からは、すこしも自慢はせぬ事也。我より手上(注3)の者ども、広き天下にかほどもあるなり。諸芸(注4)ばかりに限らず、侍道(注5)にも武刃・口上(注2)以下、さらに自慢はならぬものを、今の世は、貴賤上下それぞれに自慢して、声高(注6)に荒言(注7)はきちらし、わがままをする者多し。その癖(注8)に、それを疵(注9)をかくさんとて、よき者を誹り笑ふ事あり。ある者、座敷をたてて絵を描かす。白鷺(注6)の(注5)一色を望む。絵描(注8)き、心得(注7)たりとて焼筆(注9)をあつる。亭主(注6)のいはく、「いづれも良ささうなれども、此白鷺の飛びあがりたる、羽づかひがかやうでは、飛ばれまい」といふ。絵描(注8)きのいはく、「いやいや此飛びやうが第一(注9)の出来物(注9)ぢや」といふうちに、本の白鷺が四五羽うちつれて飛ぶ。亭主(注9)これを見て、「あれ見給へ。あのやうに描きたいものぢや」といへば、絵描(注9)きこれを見て、「いやいやあの羽づかひではあつてこそ、それがしが描いたやうには、得飛(注9)ぶまい」といふた。

(一)浮世物語「から」

- (注1) 未練＝未熟。  
 (注2) 物の上手の上からは＝すでに名人、達人の域に達している場合には。  
 (注3) 手上の者＝技量がよりすぐれている者。  
 (注4) 武刃・口上＝武芸・武士としての口のきき方。  
 (注5) 誹り＝非難する。  
 (注6) 白鷺の一色＝白鷺だけを描いたもの。  
 (注7) 焼筆をあつる＝(絵師が下絵を描くのに用いる)柳などの細長い木の端を焼きこがして作った筆で描いた。  
 (注8) 第一の出来物＝最もすぐれた点。  
 (注9) 本の＝本物の。
- 1 自慢(1)くさき とあるが、意味として適切なものはどれか。  
 ア やたらに自慢をしたがる  
 イ 自慢されるのをいやがる  
 ウ とても自慢が上手である  
 エ 自慢があまり得意でない
- 2 さらに と同じ意味で使われているものはどれか。  
 ア つくづくうちまもりて、いとみじと思ひたり。とまるはさらにも言はず。  
 イ あしひきの山下ひかげかづらける上にやさらに梅をしのはむ  
 ウ はかなき心地にわづらひてまかでなんとしたまふを、暇(注1)さにゆるさせたまはず。  
 エ ここに六十の露消えがたに及びて、さらに末葉(注1)の宿りを結べる事あり。

3 よき者を誹り笑ふ事あり とあるが、その理由として適切なものはどれか。

- ア 自分の至らない点を他者に指摘されたくないから。
- イ 立派な人間にある欠点を非難して動揺させたいから。
- ウ 自分の方が努力家であることを確信しているから。
- エ 立派な人間の存在を常々うとましく感じているから。

4 羽づかひがかやうでは を現代かなづかいに直したとき、正しいものはどれか。

- ア わづかひがかよふでは
- イ はづかひがかやうでは
- ウ わずかひがかやうでは
- エ はづかひがかやふでは

5 それ(5)がし とは誰を指すか。

- ア 手上的者
- イ よき者
- ウ 亭主
- エ 絵描き

6 得飛ぶ(6)まい とあるが、現代語訳として適切なものはどれか。

- ア すぐに飛ぼうとしなかったことだ
- イ きつと飛びたかったにちがいない
- ウ すでに飛んでしまったのだろうか
- エ 飛ぶことはとてもできないだろう

7 文章中に「 」をつけるべき部分はどれか。

- ア をのれが疵をかくさん
- イ 白鷺の一色を望む
- ウ 心得たり
- エ 四五羽うちつれて飛ぶ

8 筆者の主張として適切なものはどれか。

- ア 自慢することが上手な人は、日ごろからあらゆる芸事において、熟達するために地道な努力を重ねており、自分がそれ相応の技量を身につけたと確信したときにだけ自慢するものである。

イ 名人という者が少しも自慢したりしないのは、自分より技量の高い者が何人でもいることを知っているからであり、自慢をするのは、いわば自分の技術が熟達していないことの表れでもある。

ウ どんな身分の人間でも自慢をするのは悪いことではないが、えてして身分の低い者はいき大げさに話したり、嘘や偽りを交えて話しがちであるので、聞く者は注意しなければならぬ。

エ 名人という者が自慢をあまり得意としないのは、広い視野をもち、常に相手やまわりの様子に敏感に反応し、自分よりも他を優先させるので、自慢をする機会が少ないからである。

## 3

次の文章を読んで、1から9までの問いに答えなさい。

匙さじということばは、「匙を投げる」とか「匙加減一つで」といったような成句的表現の中では今でもよく聞かすが、単独ではあまり用いられなくなった。匙はスプーンに取って替かわられたのである。しかし茶匙とか大匙、小匙のように複合形となれば、料理関係の文脈ではよく出てくる。したがって匙とスプーンは日本語の語彙の中では、一種の併存関係にあると言えよう。

このように在来語と外来語が併存する例としては、葡萄酒ぶどう、ワイン、小刀ナイフ、メス、そして戸扉、ドアの関係などがある。いずれの場合にも、基本的には同一のものが、場合によって、あるいは特定の表現との関係で、さらには付随的な相違点のゆえに、旧来の表現で言われたり外来語が用いられたりする。

a どちらかと言えば葡萄酒と言ったことを好む人でも、ワイン・グラスやワイン・ゼリーのような時には葡萄酒という表現は使にくい。また若者はワインと言ったことが多いが、年配の人は葡萄酒という表現を好むといった年代差が絡かむこともある。

小刀ナイフについて言えば、洋食の文脈では小刀の出る幕がなく、また比喩的な使い方の時は「メスを入れる」のようにドイツ語にかわる。しかし工作関係となれば小刀が幅をきかすといった具合である。このように(1)外来語と在来語が併存すると言っても、両者の関係はかなり(2)である場合が多い。

外来語の多用に対しては、しばしば批判的な意見が述べられるが、問題とされるものにはこの併存型の語が多いと思う。せつかくちちゃんとした日本語があるのに、どうして外国のことばを

使うのかといった非難は、例えば食堂などで給仕が水と言えよよいのにウォーターを使い、苺いちじくという美しい語があるのに、わざわざストロベリーと呼んだりすることに向けられるようだ。

しかしこのような一見無意味に見える外来語の使用も、よく観察してみると、そこには(3)日本人の事物の把握の様式がもつ、一つの特徴が表あらわれていることに気づくのである。

それは何かと言うと、例えば米の飯はたとえそれを昔の人がしたように、木の葉に盛ろうと、茶碗ちawanによそおうと、洋皿の上に盛りつけようと、米の飯であることはいっこうに変わらないはずである。しかし私たちはどうも御飯ごはんということばを(4)において強く認識するらしい。

つまり御飯ということばの意味には（米を炊いたもの）に加えて（茶碗によそわれている）という直接の対象以外の文脈要素が、副次的に含まれていると言える。だから洋皿に盛りつけた御飯は、たしかに御飯には違いないのだが、でもそれを御飯と呼ぶことに、何となくためらいを感じるのである。この心理がライスという、理性的な見地から言えば無用と思われる外来語を選ばせる原因だと思おう。

要するにライスということばは、日本語の中で（洋皿につけられている米の飯）という意味分化をとげ、単なる御飯、つまり茶碗で食べる米の飯とはすでに(2)な関係にあるのだ。

同様にして、いかに外来語好みの若者でも、苺畑に生えている真紅の苺を指して、ストロベリーとは言わないだろう。だがレストランで美しいガラスの器に盛られてクリームなどがかかっていると、ついストロベリーと言いたくなるのである。

私の言うこの文脈取り込み型の認識様式、つまり表現形態は、気象現象という意味ではまったく同じ雨に対して、日本語には数多くの異なった名称がつけられているといった、日本文化論などでおなじみの指摘の背後にも見られるものである。

このような感覚に支えられている現象は、必ずしも直接言語に表われてはこない習慣にも認められる。それは多くの日本人が、同じお茶を飲むのにも、煎茶、番茶、そして紅茶をそれぞれ違った器で飲むという習慣である。番茶と取手のついた紅茶茶碗の組合せは、どこか感覚的にしっくりしないと感ずるものが平均的日本人なのである。私はアメリカ人のある家で、緑茶をコーヒーカップに入れて出されたとき、つくづくこの点を思い知らされた記憶がある。

このような文脈取り込み型の心理にもとづく外来語の使用、それも英語に由来する外来語の行き過ぎとも思える乱用を可能にした重要な条件として、戦後の日本における国民規模での英語教育の普及をあげなければいけない。

義務教育となった中学校でほとんどの日本人が三年間も英語を学び、そのまた九割強が高等学校でさらに英語教育を受けるため、身近な事物や現象を英語では何と言うかといった程度の英語の知識が、国民大多数の常識となったのである。

この事実があればこそ、英語による併存型の表現が爆発的に広がったと考えられる。**b** 一般の人が、たとえ文脈取り込み型の心理から、洋皿に盛った米の飯を従来のようにただ御飯と呼ぶことに抵抗を感じたとしても、米は英語でライスだという知識がなければ言い換えることが出来ないし、またライスと

言われても何のことか理解できないから、広く普及することはありえないはずである。

併存型の外来語のほとんどが英語であることを考えれば、度を過ぎた外来語の多用に対して批判的な人々が、しばしばその理由にあげる欧米崇拜や外国語に対する憧れやコンプレックスに加えて、日本人が元来もっている文脈取り込み型の言語心理を、広く普及した英語の知識が助長したという事実を考慮する必要があると考える。

**c** このように外来語の多用に対して、どちらかと言えば理解を示す私でも、絶対に望ましくないと思う、まったく無意味どころか有害の上もない併存型の濫用がある。それは「行政サイドと致しまして、<sup>(注2)</sup> タックスペイヤーのニーズに應えるべく、システム作りをシリアスに検討中であります」といった、耳を掩いたくなるような種類の日本語である。

頭の中で日本語を出来るだけ多くの英語に置き換えるゲームをやっているとしか思えないような、この種の馬鹿げた傾向は私たちの日常生活の中に、いま疫病のように拡がりだしている。

(鈴木孝夫「教養としての言語学」から)

(注1) 給仕＝レストランなどで働く接客係の古い言い方。

(注2) タックスペイヤー＝納税者。

1 本文中の **a**・**b**・**c** に入る語の組み合わせとして適切なものはどれか。

- ア a 仮に                    b さらに                    c しかし  
イ a 例えば                    b もし                    c しかし  
ウ a しかし                    b また                    c さらに  
エ a 例えば                    b さらに                    c もし  
オ a しかし                    b もし                    c また

2 <sup>(1)</sup> 外来語と在来語が併存する とあるが、両者が併存する条件として適切なものはどれか。

- ア その語を用いた慣用的な表現が定着していること。  
イ 特定の分野で他の語句やことばと結合させて用いていること。  
ウ 語の使用頻度の差が世代によって大きく異なっていること。  
エ その語が用いられる場所や状況がかなり限定されていること。  
オ それぞれの語が本質的に異なるものを意味していること。

3 二つの **(2)** に共通して当てはまる語はどれか。

- ア 対立的                    イ 包含的                    ウ 排他的  
エ 相補的                    オ 意図的

4 <sup>(3)</sup> 日本人の事物の把握の様式がもつ、一つの特徴 とあるが、それはどのようなものか。

- ア その時代の風潮や流行を反映したことばを、既存のことばより意識的に多用すること。  
イ 外来語の多用に対する批判に配慮して、外来語の使用頻度を調節すること。  
ウ そのことばが表す直接の対象に付随する要素をも意識して、ことばを使い分けること。

エ 自分が話をする相手の年代や、自分との関係性によって、ことばを選択すること。

5 **(4)** に当てはまるものとして適切なものはどれか。

- ア 米飯料理、特に副菜との関連性  
イ 食の変化、特に主食としての重要性  
ウ 歴史的背景、特に日本人の国民性  
エ 和食の文脈、特に茶碗との共起性  
オ 食物の素材、特に調理方法の可能性



6 この点 とあるが、どのようなことを指しているか。

ア 同じ気象現象に対して、数多くの異なった名称をつけているのは日本語だけであるという点。

イ 日本人の生活習慣には、状況に応じてことばを使い分ける感覚に通じるものがあるという点。

ウ アメリカ人がお茶やその他の飲み物を飲むとき、それを入れる器には全くこだわらないという点。

エ 番茶をコーヒーカップで飲むことに違和感を覚えることが平均的日本人であるとされる点。

7 <sup>(6)</sup> 英語による併存型の表現が爆発的に広がったと考えられるとあるが、それはなぜか。

ア 英語教育が国全体に普及したことにより、日本人のほとんどが基本的な英語の知識を身につけたから。

イ 日本語以上に、英語や英語圏の文化に興味や憧れを持つ人が増え、日本語が使われなくなっていくから。

ウ 多彩な日本語の表現が混乱を生じさせることがあるため、共通理解の手助けとして外来語が用いられたから。

エ 欧米文化が多く取り込まれてきた生活環境の中では、必然的に外来語を使わざるを得なかったから。

8 <sup>(7)</sup> コンプレックス とあるが、これとほぼ同じ意味を表す語はどれか。

ア 親近感      イ 高級感      ウ 劣等感

エ 連帯感      オ 存在感

9 本文における筆者の主張として最も適切なものはどれか。

ア 現代の日本における外来語の多用には、文脈の中で最適のことばを選択しようとする日本人特有の心理に、英語教育の普及が拍車をかけたことも一因である。

イ 今後さらに流入が増えていく外来語に敏感に反応し、あらゆる場面で積極的にそれらを活用していくことが、日本人の言語生活を豊かにする。

ウ 番茶とコーヒーカップの組み合わせに違和感を抱いたとしても、それは平均的な日本人の感覚であり、文化や考え方の違いは尊重すべきである。

エ 英語の急速な普及と多用が、世代間の相互理解を妨げるといふ問題を生みだしているので、現在の英語教育の方向性を再度見直す必要がある。

## 4

次の文章を読んで、1から9までの問いに答えなさい。

次の文章は、「わたし(落子)と姉の笹子(笹ちゃん)が営むサンドイッチ店「ピクニック・バスケット」に、高校生の三戸真哉が訪ねてくる場面である。

三戸の中学時代の同級生・水野知花は、三戸に「新井さんのお日さまキュウリはおいしい」と言われてキュウリが好きになる。高校一年の夏、三戸と再会したとき、水野は「新井さんのお日さまキュウリを持参するが、三戸は「それはにせものだ。キュウリなんかおいしくない」と言う。水野が立ち去ったあと、三戸は水野が落とした花火パーティのチラシを拾う。それには「ピクニック・バスケット」のキューカンバーサンドイッチ注文券が付いていた。「わたし」と笹子は、注文券付きのチラシを三戸が持っていることを、常連客の一人から聞く。

花火パーティの日、わたしたちは店を閉めたあと、キューカンバーサンドイッチをつくりはじめた。

『かわばたパン』でいろいろ試食させてもらったのは、このためのパンを選びたかったかららしく、笹ちゃんは、きめ細かではんわり甘い食パンを選んだ。薄く切つてもきちんと弾力があるし、香りもいい。おとなしいキュウリをほどよくアシストしてくれるパンだ。

「ねえ笹ちゃん、来るかな」

わたしは、薄切りしたパンにしっかりとバターを塗っていく。ふだんのサンドイッチより多めのバターだ。

「来るよ。来てほしいなあ」

笹ちゃんは、キュウリを理想的な厚さにスライスする。キッチン前のドアの外で、コゲがニャアと鳴く。キュウリに気づいているのだろうか。

「落ちゃん、店の外に誰かいるのかも」

そう言う笹ちゃんは、コゲの鳴き方を聞き分ける。わたしにはまだまだ難しい。

キッチンを出て、閉店後は内側にカーテンをおろしてあるドアのほうへ歩み寄る。ガラスの向こうに人影があるのは、カーテン越しに a とわかる。きっと彼だ。期待しながらわたしはドアを開ける。

いきなり店の中から人ができて、たじろいだ少年は、数歩後ずさった。目がぼつちりしていて人なつっこい印象で、細い体にグリーンの縦縞シャツはなんとなくキュウリっぽい。なんて思ったのは先入観だろうか。

「いらつしゃいませ」

「あの……、ここもう閉まつてるんですね？」

わたしは、彼が手にしている花火パーティのチラシに目をとめる。あれはサンドイッチ注文券だ。

「注文券、お持ちですか？ でしたらどうぞ」

「え、あの、でもこれは拾ったんで……」

「大丈夫ですよ」

b と、彼は店内に入ってきた。イトイン用の椅子を勧め、わたしは券を受け取った。

「この券、水野知花さんの落とし物ですよ。キューカンバー

サンドイッチ、彼女が好きな新井さんのお日さまキュウリでつくってるんです」

「でも……、そのキュウリはもうないんです。今は、同じ名前でも別物やから」

「今のは食べたことがあるんですか？」

聞くと彼は首を横に振る。

「じゃあ、違いがあるかどうかわからないんじゃないでしょうか」

「違ってたら？ 丸かじりって、本当にキュウリの味がはっきりわかるんで、食べてみて(3)って思うかもしれないのがイヤなんです。苦味を感じるかもしれないから……、ちよつとでも苦かったら、ぜ(4)つたいむかつくから」

何に、誰に対してむかつくのだろう。新しいつくり手の青年？

それとも、引退したおじいさん？ それとも……。

「キューカンバーサンドイッチ、食べたことあります？」

笹ちゃんがキッチンから出てきて言う。彼はまた首を横に振る。

「ぜひ試食してみてください。あなたがよく知っている新井さんのお日さまキュウリとは違うかもしれないませんが、食べたことのないサンドイッチなら、今まで一番だったキュウリと違っていても当然でしょう？」

できあがったばかりのキューカンバーサンドイッチがお皿に並んでいる。それを笹ちゃんはテーブルに置いた。

彼のおじいさんがつくるキュウリはもうない。でも、同じ名前のキュウリはある。三戸くんは、それを丸かじりして(3)ところを見つけてしまうのがイヤだという。

でも、ここにあるのはキュウリじゃなくて、キューカンバー

サンドイッチだ。そのままのキュウリを味わえるけれど、そのままのキュウリじゃない。

「具はキュウリだけですか？」

彼にとつては意外だったようだ。サンドイッチのキュウリは、たいてい彩りや添え物で、メインの具材にするイメージではないかもしれない。

「ええ、キュウリを楽しむサンドイッチですから」

「それに、小さくないですか？」

「つまんでひとくち、っていうサイズです」

あまりにもシンプルで、これだったらまるごとのほうがしっかりキュウリを味わえて食べ応えがあるに違いない、といぶかしんでいるのか、彼は斜めから横からサンドイッチを観察した。

「注文券なんてつくったのは、水野さんに食べてほしいと思っただけなんです。彼女に、キュウリを嫌いになつてほしくないから。そう思いませんか？」

その言葉に背中を押されたのか、三戸くんは思い切ったように口に運んだ。<sup>(5)</sup>

「おいしい……」

そうして、驚いたようにつぶやく。

「それに、こんな食感とか味も、はじめてです」

笹ちゃんがつくったものだけど、わたしは誇らしくなって頷いた。キュウリのほどよい厚さは、硬すぎずやわらかすぎず、パンのソフトな感触にちょうどよいくらいに皮の削ぎ具合を調節している。

ふだんより多めに塗ったバターの香りと塩気がキュウリを引き立て、ソフトなパンとパリパリしたキュウリが調和する。

ふたつめに手をのばし、不思議そうに彼はキュウリの断面を眺めた。

「キュウリって、きれいな色ですね」

パンに、薄切りしたキュウリを少しずつ重ねて並べていくと、緑の断面が幾何学的な模様みたいに出てくる。ふだんのキュウリとは違う、おめかししたキュウリだ。笹ちゃんのサンドイッチは、見慣れた食べ物がよそ行きの顔になる。新たな魅力を、パンにはさむだけで引き出してしまふ。三戸くんも、<sup>(6)</sup>そんな魔法を感じたのだろう。

「おれ、水野にあやまりたいんです。八つ当たりみたいなきことしてしまつて。単に、おれが苛<sup>いら</sup>立つたただけで、あいつは悪くないのに……。ぜつ<sup>つ</sup>たいに、キュウリを嫌いになつてほしくない。これ、水野に食べてもらいたいです」

「新井さんのキュウリ、今年のはやっぱり丸かじりしたくないですか？」

その質問には、悩んだようにうつむく。

「新井って、おれの祖父です。でも今年から、別の人がつくつてます。おれ、小さいころからキュウリが好きで、夏休みにはいつも収穫を手伝いに行つて、大人になったらじいちゃんといっしょにつくるつてよく言つてました。そう言う<sup>う</sup>とじいちゃんは、跡継ぎができたつてよろこんでくれてたんです。でも中学で進路のこと考えて、高校の見学に行つたとき、パソコンのプログラムつくつてる授業があつて。興味があつたし、在校生の話とか聞いてたら、勉強したいなつて思つて」

「それは、ステキなことじゃないですか」

夢ができたのだから、おじいさんだつて応援したいと思つているだろう。

「農業を継ぐなんて言つても子供のことだから、誰も本気にしてないのはわかつてました。だからじいちゃんは、地元の農協と協力して、若い人に土地を貸したり、積極的に手伝つてもらつたりしてたし、おれもすんなり進路を決めたけど……。足を悪くして引退するつて聞いたとき、ショックだつたんです。これからはずつと、じいちゃんのキュウリを食べられるつて思つてたから」

味が変わつたらとか、作り手が違えばにせものだとか、そんなことは彼にとつて、本当はどうでもいいことなのだと感じながら、わたしも笹ちゃんも、黙つて話を聞いていた。

「じいちゃんを裏切つたみたいなきがしたんです。何十年も変わらずにつくつてきたキュウリを、おれよりもつと理解してる人がいて、ちゃんと残そうとがんばつてる。なのにおれはじいちゃんから離れてく。もう、キュウリ食べる資格ないねんなつて思つて」

三戸くんにとつて、新井さんのお日さまキュウリは、自分と祖父の間<sup>ま</sup>にいつでもある、とくべつな絆<sup>きずな</sup>だつたのだろう。けれどもう、新井さんのお日さまキュウリは次の世代に引き継がれた。

おいしいキュウリをこれからも食べてほしいと願う、おじいさんの三戸くんへの思いは変わらないけれど、キュウリは、<sup>(注3)</sup>あの金髪青年の生き甲斐<sup>が</sup>にもなつていく。

三戸くんの中には、<sup>(7)</sup>とが混じり合つていて、新しい新井

さんのキュウリに、苦味を感じてしまいそうだったのだ。

「おいしいと思うなら、食べていいんじゃないかしら。食べた  
いものを食べるのに、資格なんていらぬです。おいしいと思  
えたら、それ以上の理解なんて必要ないでしょう？」

笹ちゃんは **c** とした口調で、はっきりした答えを出す。  
姉妹だとはいえ、わたしにとつて笹ちゃんは不思議な存在だ。  
どこもかしこもやわらかそうな笹ちゃんは、堅い芯をどのへん  
に隠しているのだろう。

「これ、水野さんに届けてくれませんか？ 水野さんの友達がこ  
こへ来たとき言っていました。今日の花火パーティ、いっしょに  
行くんだって」

小学校の校庭に夜七時集合、花火とおやつは各自持ち寄り。  
キューカンバーサンドイッチは、きつとおやつにちょうどいい。

「あなたが届けたキュウリを、水野さんに食べてほしいんです」  
三戸くんは、もうひとつキューカンバーサンドイッチを手に  
取る。それはロールサンドにしたキュウリだ。ひとくちサイズ  
の輪切りになっている。

「ちっちゃな花火みたいや」

キュウリの丸い断面をじつと見て、三戸くんは言った。

(谷瑞恵「語らいサンドイッチ」から)

(注1) かわばたパン＝笹子と落子がパンを仕入れているパン屋。

(注2) コゲ＝店で飼っている笹子の猫。

(注3) あの新井青年＝三戸くんの祖父のキュウリづくりの跡を継いだ若者。

髪の毛を金色に染めている。

1 本文中の **a**・**b**・**c** に入る語の組み合わせとし  
て適切なものはどれか。

- |     |      |   |      |   |      |
|-----|------|---|------|---|------|
| ア a | はつきり | b | おずおず | c | やんわり |
| イ a | ほんやり | b | すたすた | c | やんわり |
| ウ a | うつすら | b | すたすた | c | ほんやり |
| エ a | はつきり | b | おずおず | c | おつとり |
| オ a | ほんやり | b | おずおず | c | おつとり |

2 わたしたちは店を閉めたあと、キューカンバーサンドイッチ  
をつくりはじめた とあるが、それは何のためか。

- ア キュウリが残ったので、自分たちの食事にするため。  
イ 明日の朝、開店一番にやってくるお客さんに売るため。  
ウ 自分たちが食べてほしいと思っている人たちに提供するため。  
エ 他のお店にはない新商品を開発して、お客さんを増やすため。  
オ 花火パーティに来た人に試食してもらい、宣伝するため。

3 たじろいだ少年は、数歩後ささった とあるが、少年が店に  
来た目的は何か。

- ア 自分用のキューカンバーサンドイッチ注文券をもらうため。  
イ このお店のキューカンバーサンドイッチに興味をもつため。  
ウ 水野さんが落としたチラシに付いている注文券を使うため。  
エ 新井さんのお日さまキュウリを使わないように頼むため。  
オ 水野さんからこのお店のサンドイッチを勧められたため。

4 (3)に共通して当てはまる語はどれか。

ア 苦い    イ 薄い    ウ おいしい

エ 同じ    オ 違う

5 (4) ぜったいむかつくから とあるが、少年はどんなことに対し

て「むかつく」と思っているのか。

ア おじいさんのキュウリ作りを継ぐと言っていたのに、自分の夢を優先してしまったこと。

イ 自分に何の相談もなく、おじいさんがキュウリ作りをまったくの他人に託したこと。

ウ 水野さんがキュウリの味が変わったことに気づかずに、おいしいと言っていること。

エ キュウリの新しい作り手の青年が、勝手に自分なりの作り方や味に変えてしまったこと。

6 (5) 思い切ったように口に運んだ とあるが、このときの三戸く

んの気持ちとして適切なものはどれか。

ア キュウリに関する自分の思いやこだわりが、今日交わした会話だけで落子と笹子にきちんと伝わったとは思えず、もどかしさを感じている。

イ 自分が想像していたキューカンバーサンドイッチとはまったく違っており、やはり自分の期待に応えるような味ではないだろうと落胆している。

ウ キュウリが好きだという水野さんの気持ちが失われないうにといい思いが、サンドイッチに込められていると知って、動揺している。

エ 落子と笹子との会話を通して、もしかすると祖父が作っていたころのキュウリと同じ味をここで味わえるかもしれないという希望を抱いている。

7 (6) そんな魔法 とあるが、この「魔法」の説明として適切なものはどれか。

ア キュウリの色や形を生かして、見慣れた食材をおしゃれに見せると同時に、食べる人が思いもしなかったおいしさという新鮮な幸福感を与えるもの。

イ 味つけを濃いめにして、味の印象をより強く残すことで、普段はあまり口にするのではない高級食材を味わったかのような満足感を与えるもの。

ウ キュウリの食感をソフトにしてパンと一体化させることで、驚くような味わいこそないが、また食べたくなるような飽きのこない安心感を与えるもの。

エ 大きめのキュウリを使ったり、量を多めにしたりすることで存在感を際立たせ、食べれば食べるほど元気が出てくるような高揚感を与えるもの。

8 (7) に当てはまる語句として適切なものはどれか。

ア 情熱と無常の思い

イ あきらめと感謝の思い

ウ 苛立ちと困惑の思い

エ 淋しさと自責の思い

オ 怒りと失意の思い

9 「笹ちゃん」が「三戸くん」に伝えたいことはどういうことか。

ア 自分の食べたいと思う味を、妥協することなく追求して、周りの人と分かち合えばよいということ。

イ 味や作り方の変化にこだわらず、自分がおいしいと感じる気持ち大切にすればよいということ。

ウ 自分の心や体にどんなよい効果を与えてくれるのかを考えながら食材を選ぶべきだということ。

エ 作った人の思いや苦勞をその食材に感じながら、感謝の気持ちをもっていたくべきだということ。

5 次の文章を読んで、1から8までの問いに答えなさい。

「「こころ」をいつも安定させ、落ちついた状態を保つには、よけいな重荷を背負わないよう心がけることが大切です。簡単に言うと、荷物を軽くするだけでも「こころ」の重さはかなり違ってきます。

私は以前、いつも大きなバッグを持ち歩いていました。「旅行に行くんですか？」と聞かれるくらい大きなショルダーバッグにいろいろなものをつめこんでいました。

のどが痛くなったときにシユツシユツとする薬とか、メガネのいろいろなケースとか、雑誌とか、いらぬようなものごとくさん入っていて、しかも本がいつも五、六冊入っていたので、本場にひきずるように重いカバンでした。

本が多いのは、もしかしたらどこかで読むかもしれないと思って持っていくからです。

泊まりがけの仕事でも入ろうものなら、大変です。新幹線の中でも仕事をして、ホテルでも仕事をしようとはりきって、七冊も八冊も本を詰め込んでいくのですが、結局、新幹線の中では爆睡し、ホテルではテレビを見てしまつて、何もやらずに帰ってきます。

あの重い七、八冊の本は何だったのか、ということになつて、これはバカのやることだろうと、**a** あきらめがつかしました。

そこで対処法として、カバンを小さいものに替えることにしました。そして「この日はこれ」と決めた一冊だけを小さいカバンに入れて、どうしても必要な場合は、プラス紙袋に、はみ出したものを入れるようにしたのです。

**b** カバンを小さくして身を軽くするようになったところ、意識がしぼれてきて、自分は今日これをしなければいけないのだ、ということがはつきりしてきました。

みなさんの中にも、あれもこれもとかき集めてきて、少しも勉強や用事がはかどらない人がいるでしょう。そういうときは身の回りを少しシンプルにして、「今日はこれだけすれば、もう上がりだ」と割り切つてしまつと、「こころ」が軽くなり、集中力も増してきます。

( 中 略 )

「こころ」をいつも平穩に落ちつかせているだけでなく、ここぞというときには奮い立たせることができれば、不安はずっと少なくなりませう。

その究極の方法が遺伝子<sup>(1)</sup>をスイッチ・オンにすることです。「こころ」を良好に保つのに、遺伝子が関係するのか、とびっくりした人もいるかもしれませんが。

私も初めて聞いたときは驚きました。この突拍子もない話を私は対談でお会いした遺伝子工学の第一人者の村上和雄先生から聞きました。

先生によると、人間にはさまざまな遺伝子がありますが、それらは環境などの要因でオン(ON)になったり、オフ(OFF)のままになっていることもあるそうです。たとえある才能があつても、遺伝子がオフのままなら、何の意味もありません。

イチローは野球に関する遺伝子が素晴らしくオンになった例と



いえます。イチローはたまたまお父さん<sup>(2)</sup>が野球をやっていたので、小さいころから野球遺伝子がオンになりました。でももし別の環境に生まれていたら、オンになっていたとは限りません。たとえばイチローが江戸時代に生まれたらどうでしょう？足の速い飛脚にはなつたかもしれませんが、野球選手にはなれません。つまり遺伝子がオンになるような刺激や環境が重要なのです。

### ア

村上先生によると人間の遺伝子は天才も凡才も九九・五%は同じで、残り〇・五%が違うそうです。その〇・五%のスイッチがオンするか、オフのままかで天才か凡才かがわかるのです。

だから遺伝子をオンにすることがとても重要なのですが、確実にオンにする方法がふたつあるそうです。

### イ

ひとつはなんと飢餓状態に追い込むことだと、先生は言っていました。生き物は飢餓に追い込まれると、生き延びるためにすべての遺伝子をオンにするそうです。クローン羊を作るためには、もとの羊の遺伝子を全部オンにする必要があるのですが、これがむずかしかった。飢餓に近くなつた時にすべてがオンになり、コピーできたという話でした。

### ウ

私たちはまさか自分たちを飢餓状態に置くことはできませんが、少なくとも、ぬるま湯に浸りきりにならず、自分を追い込むような状況をあえてつくることで、遺伝子のスイッチのいくつかはオンにすることが可能です。

### エ

試験で目標の点数が取れなかったら、持っているゲームを全部処分するとか、友だちの前で「何点取ってみせる」と宣言して、引っ込みがつかない状態をつくるとか、自分を追い込む環境をつくってみましょう。そうすれば、意外な遺伝子がオンするかもしれません。

### オ

遺伝子をオンにするもうひとつの方法は、遺伝子オンになっている人の近くにいたことだそうです。人間は自分の近くにいる人と細胞のミラー<sup>(注)</sup>ニューロンが反応して、染色体レベルで真似<sup>ね</sup>を始めるそうです。

悪い友だちが近くにいれば、自分もそうなるし、立派な人と接していると自分もそのようになってきます。類は友を呼ぶとか、<sup>(3)</sup>、ということわざがありますが、あれも立派な<sup>(4)</sup>的根拠があつたわけです。

人間の細胞はどんどん入れ替わるので、そのとき遺伝子がオンしている人の近くにいると、新しく生まれた細胞はそれに反応して、遺伝子のスイッチがオン気味になってきます。その典型が二〇一〇年のサッカーワールドカップ南アフリカ大会でした。日本は試合に出場していないベンチの選手たちも一緒に試合を盛り上げたので、一人ではなく二三人で戦っている状態をつくりあげました。

全員のスイッチがオンになって、連鎖していく感覚です。だから勝てたといえます。

でもその前のドイツ大会のときは、まったく逆でベンチが盛り上がりならず、一体感がなかったそうです。それが連鎖して、遺伝子がオンせずに、失敗してしまいました。

ですから、みなさんもオンが連鎖していく前向きな「ところ」の状態をつくりたいければ、遺伝子のスイッチがオンになっている人、たとえば一流の人とか、(5)人を見つけて、刺激を受けるのがいいでしょう。

もし身近にいなければ、自分の「ところ」にふれる人たちの作品にどっぷり浸ってみるのがいいと思います。

その人が自分の目の前にいけば、細胞のミラーニューロンはびんびん反応して遺伝子のスイッチは入りやすい。でも目の前にいなくても大丈夫です。残念ながらもう亡くなっていたり、遠いところにおいて、直接会うのが難しい場合でも、その人の書いたものや、つくった作品にどっぷりつかってひたりきると、あたかもその人になりかわったかのように、細胞レベルで影響され、自分の遺伝子のスイッチが入ります。

ちなみに、私は学生するとき、メルロ＝ポンティという身体論を展開した哲学者に心酔し、何年にもわたって彼の研究に没頭しました。

メルロ＝ポンティはもう亡くなっていますが、私は彼の代弁者としてどんな論戦でも受けて立てる自信があります。私のミラーニューロンはメルロ＝ポンティの遺伝子に反応し、スイッチがオンする状態まで達したのだと思います。

それが学者としての今日の私の基礎をつくっています。よく「DNAを継承する」という言い方をしますが、あれは比喻では

なく、実際に(4)的にも十分あり得ることだといえます。

(齋藤 孝「からだ上手 ころ上手」から)

(注) ミラーニューロン＝相手の行動を見て、自分自身も同じ行動を追体験しようとする神経細胞。

1 本文中の a・b に入る語の組み合わせとして適切なものはどれか。

- |          |        |
|----------|--------|
| ア a さつそく | b しばらく |
| イ a ようやく | b おそらく |
| ウ a なんとか | b おそらく |
| エ a ようやく | b とにかく |
| オ a さつそく | b とにかく |

2 (1) 遺伝子 とあるが、その説明として適切なものはどれか。

ア 人間の遺伝子は一人ひとり異なっており、大きささまざまの得意、不得意などの差が必然的に生じる。

イ 人間の遺伝子には一定の型が複数あり、成長の度合いはさまざまで、その差は環境によるところが大きい。

ウ 人間の遺伝子は親や血族関係から受け継ぐところが大きく、生活環境によって変化することはない。

エ 人間の遺伝子にはほぼ違いがなく、生きていく上での環境や刺激による影響を受けて差が生まれる。

3 お父さん<sup>(2)</sup> とあるが、ここではどのような人として挙げられているか。

- ア 息子に将来の進路の選択肢を与えた人。
- イ 息子に自分の遺伝子を受け継がせた人。
- ウ 息子を追い込む環境の中で育てた人。
- エ 息子に固有の才能の大切さを教えた人。
- オ 息子が野球に触れる環境をつくった人。

4 (3)に当てはまることわざはどれか。

- ア 朱に交われば赤くなる
- イ 三人寄れば文殊の知恵
- ウ 三つ子の魂百まで
- エ 船頭多くして船山に上る
- オ 情けは人のためならず

5 (4)に共通して当てはまる語はどれか。

- ア 本質的
- イ 物理的
- ウ 科学的
- エ 哲学的
- オ 一般的

6 (5)に当てはまる語句はどれか。

- ア 周りを気にせず一心不乱に取り組んでいる
- イ 自分の憧れややる気をかきたててくれるような
- ウ 親身になって自分にアドバイスしてくれる
- エ ライバルとして適度な競争ができそうな
- オ 自分と心が通じ合っていると感じられる

7 本文中のアとオのいずれかに、次の一文が入る。最も適切な位置はどれか。

よく、火事場の馬鹿力<sup>①</sup>といいますが、みなさんも自分を追い込む厳しい状況をつくってみれば、思わぬ力が出るかもしれません。

8 次の会話は、本文の内容について生徒AとDが話し合っている場面である。この会話を読んで各問いに答えよ。

- A「可能な限り余計な荷物や物事を切り離して、心身を軽い状態に保つことは、意識を集中させるために大事なことなんだね。」
- B「確かに、勉強を始めようとして机の前に向かった時、机の上に置いてある物が気になって、集中できなくなるときがあるよ。」
- C「Iのようにすれば行動範囲や視野が広がって、新しい発見もありそうだな。」
- D「『I』の安定に遺伝子が関係するなんて思いもしなかったけれど、その遺伝子を最大限に働かせるためにはIIことが必要なんだね。」

(1) Iに当てはまるものはどれか。

- ア 行動のしやすさという点に重点をおいて、その時の自分に必要なものを優先させる
- イ いつも協力者がいる環境の中で情報を共有することで、必要最低限のものや情報を備える
- ウ 今、自分にとって興味のあることだけにしぼって、その他の情報は一切取り入れない
- エ いざという時に備えて、分野を問わず常に多種多様な情報の収集を積極的に行う

(2) IIに当てはまるものはどれか。

- ア 心にゆとりがもてるような、気遣いのいらぬ環境の中で、自分の可能性を探求する
- イ 自分を奮い立たせることができるような環境の中に、あえて自分から踏み込んでいく
- ウ 自分もあんなふうになりたいと思う人の取り組みを、その意義は考えずにまずは模倣する
- エ 面倒なことやしなくてもいいような苦労は極力回避して、心身の負荷を軽くする